



学校だより



千葉市立みつわ台北小学校
9月号
(R8年9月1日)

学校に子供たちの笑顔が戻ってきました！

厳しい残暑が続いていますが、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、長期にわたる夏休みの間、ご家庭や地域で子供たちを温かく見守り、支えていただきましたこと心より感謝申し上げます。

夏休みを終え、学校には子供たちの笑顔と元気が戻ってきました。登校時間に交差点に立っていると、「友達と会えてうれしい」「旅行に行ってきたよ！」とたくさんのお話を聞かせてもらいました。教室では、担任の先生に身振り手振りを添えて夏休みの出来事を楽しそうに話をしている姿が見られました。少し見ない間に一回り頼もしくなり、教職員一同、大変うれしく感じています。

夏休み明けの時期は、家庭中心だった生活リズムを学校中心の生活リズムに戻す大切な時期です。この時期は、一般的に心身の疲れが出やすい時期であり、登校しぶりや不登校になりやすい時期だといわれています。学校では「心の健康観察」を今週金曜日まで行います。子供たちの心身の健康状態に細心の注意を払い、学校生活にスムーズに入れるように全職員でサポートしてまいります。ご家庭におかれましても、お子様の体調を見ていただき、不安があるようでしたら遠慮なく学校へご相談ください。

命を守る合言葉「おかしも」の大切さ ～令和8年熊本地震の教訓から～

7月28日に発生した「令和8年熊本地震」では多くに被害が出ました。今なお、予断を許さない状況が報じられています。学校で行う避難訓練の大切さや日頃からの備えの重要性を改めて認識しました。

今回の地震で、最も強く受け止めなければならない教訓の一つが「一度安全な場所に避難したら、決して元の場所に戻らない」ということです。学校では避難訓練の際、命を守る合言葉「おかしも」について繰り返し確認しています。

お…押さない **か**…駆けない **し**…しゃべらない **も**…もどらない

「おかしも」はパニックや事故を防いだり、命を守ったりするための基本原則の頭文字をとったものです。特に重要なのが最後の「も」(もどらない)です。災害はいつ、どこで起こるかわかりません。ぜひ、ご家庭でも「おかしもって知ってる？」と話題にしてください。いざという問いに子供たちが自分自身の命を守る行動へとつながります。

見慣れた道路が一変。大雨に潜む登下校中のリスク～千葉豪雨被害を教訓に～

先日の千葉豪雨では県内に線状降水帯が発生し記録的な大雨となり、道路の冠水や住宅の浸水が相次ぎました。また、都市部やアスファルトで覆われた地域では排水が追い付かず、わずかな時間に水かさが急増しました。見慣れた道路が一変してしまう都市型洪水の恐ろしさを痛感しました。冠水した道路は側溝との境目が見えず大変危険です。通学路も同様です。

これから本格的な台風シーズンを迎えます。大雨の際、学校では児童の安全を第一に考え、登下校の判断を行います。しかし、登下校中に天候が急変することもあります。ぜひご家庭でも地域のハザードマップをご確認いただき、具体的な行動ルートなど話し合っただけると子供たちの安全な登下校につながります。また、「避難場所」や「緊急時の連絡方法」等のご家庭での約束につきましても、改めて話題にさせていただき、再確認をお願いいたします。